

The Amagasaki Society of Fire Prevention

季報 2023 春の号 No.117

Contents

新防火協会長あいさつ	1
● 特集 わが社の防火防災	
西支部：日油株式会社 尼崎工場	2
●令和4年度事業報告	6
●令和5年度事業計画	6
●新役員紹介	7
●新入会員紹介	7
●支部活動の記録	8
●令和4年度（第57回）自衛消防隊消防操法大会	8
●令和5年尼崎市消防出初式	9
●防火防災リーダーの発掘	
中支部：社会医療法人中央会 介護老人保健施設なにわローランド	10
●4コマ漫画「フレンズ」	
中支部：日本製鉄株式会社 関西製鉄所 尼崎地区	11
●はんどしえいく	
東支部：株式会社神戸マツダ 尼崎店	12
株式会社グリーンテック 尼崎営業所	12
●ずいそう	
北支部：生活協同組合コープこうべ コープ塚口	13
●予防コーナー	
「危険物を収容する容器への表示について」	14
●地域救命サポート事業	15
●令和4年火災・救急・救助概要	16
●消防コーナー	
「NBC災害を知っていますか？」	18
●消防局財務担当からのお知らせ	
「廃棄消防ホース有効活用プロジェクトについて」	19
●レンタルDVDの紹介	20
●消防局公式SNSの紹介	20
●かいらんばん	21
●会話による119番通報が困難な方へ（WEB119・FAX119）	22
●三者間同時通訳サービスについて	22
●火災指令情報のメール配信について	22

ごあいさつ



神鋼鋼線工業株式会社 尼崎事業所

執行役員 尼崎事業所長

神保鉄男

盛夏の候、会員の皆様には、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

このたびは亀苔前会長の後任として、伝統ある尼崎市防火協会会長として重責を務めさせていただきました。誠にありがとうございます。神鋼鋼線工業(株)の神保(じんぼ)でございます。微

力ではございますが、消防局ならびに会員の皆様への御指導と御支援を受け、力を尽くしていく所存でございますので、皆様の一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。さて、新型コロナウイルス感染症が感染拡大してから、3年が経ち、コ

ロナに対する対応にも変化があるかと思いますが、このような変化のタイミングで大きな災害が起こらない事を節に願います。

政府からは、南海トラフ地震が30年以内に起きる確率が70〜80%程度と発表されており、大規模地震の発生が懸念されています。

災害に対しては、地域住民・企業による自主防災組織への主体的な参加と連携による地域の総合的な防災力の向上が益々必要となっております。万一の事態において適切な対応がとれるように、日ごろから意識を高め、災害を想定した訓練に真剣に取り組む、繰り返し行うことで十分な備えを

行っていく必要がありますので、今後とも消防局関係各位の御指導を仰いで参りたいと考えております。

自然災害への備えのみならず、防火・防災活動は消防局関係各位ならびに地域住民の皆様と当協会との強いチームワークの上に成り立つものと考えますので、三位一体となった防火・防災活動を通じて、災害に強い街づくりに進進していきたいと思っておりますので、会員皆様の御協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様方の益々の御発展と御健勝をお祈りいたしました。尼崎市防火協会会長就任の御挨拶とさせていただきます。

当工場では、多種多様な化学物質、高圧ガスなどを使用して、高温・高圧による反応や分離精製などを行っています。これらの取扱いを誤ると、漏洩・爆発・火災などの重大事故・災害を招くことになり、当社のみならず地域社会の皆様にも大きな被害をもたらします。

工場自体は創業開始後110年が経ちますが、近い将来、必ず発生すると言われている南海トラフ地震が現実味を帯びてきており、古い建物や設備の計画的な更新が課題です。

防火・防災意識の向上と

災害リスク低減活動の強化により、 事故・災害ゼロを達成しよう

●取組みについて

当工場は、1910年（明治43年）にイギリス資本の極東工場として操業を開始し、110年以上の歴史があります。操業当時、海に面していた工場の敷地は、現在は県道42号尼宝線、東と南は西堀運河で囲まれており、万が一事故・災害が発生した場合、運河や大気への化学物質の漏洩、県道の通行や近隣事業所への影響などが懸念されます。

工場では、労働・環境・設備などのあらゆる災害のゼロを目標に、ヒヤリハット、危険予知、5S、リスクアセスメントなどの基本的な安全活動を展開しています。

2000年に社内他工場で発生した爆発事故の教訓を風化させないために、毎年8月1日を「安全点検の日」と定め、全社で安定・安全な操業に向けた再点検を実施しています。2022年度は危険性の高い化学物質の取り扱いや危険度の高い作業に関する災害対策の再確認を行いました。

また、毎年工場全体で行う総合防災訓練では、南海トラフ地震の発生を想定し、それに伴う津波や火災、漏洩を想定した対応訓練を実施しています。例年、訓練には地元の尼崎市消防署様にも参加して頂き、はしご車による高所救出訓練の実演や初期消火訓練の指導などを実施しています。

●取組みの視点等

防火・防災を進めるためには、従業員一人一人が当事者意識を持ち、防火・防災対策として決められたルール・手順の理解とその実践が重要と考えています。そのため、教育や訓練を繰り返し行い、ルール・手順の周知徹底に努めると共に、ルールの理解度確認を定期的の実施しています。

また、ヒヤリハットやリスクアセスメントから得られた不安全感については、適切な対策

施設の概要

物件名称：日油株式会社 尼崎工場
所在地：兵庫県尼崎市大浜町 1-56
全体面積：183,000 m²
所有者：日油株式会社
利用形態：管理部門、製造部門、技術部門、物流部門、品質保証部門、
研究部門、関連会社
その他：常駐業者（複数）

を立案・実施し、必要に応じて工場全体で水平展開を行い、災害防止につなげています。
さらに、過去の災害防止対策が、今現在も継続して実施できているか定期的にチェックを行い、対策の徹底を図っています。

●取組みの成果

ルールの理解度確認では、確認結果から理解の進んでいないルールや対象者の傾向がある程度つかめるため、それを補強する教育につなげています。

また、防災訓練後に毎回実施しているアンケート調査では、以前に比べて、より現実的な意見が出されるようになって来ており、防火・防災に対する従業員一人一人の当事者意識は向上しているものと思われまます。出された意見を参考に、より実用的な手順や訓練へと見直しを図っています。

ここ数年はコロナ感染症対策のため、訓練参加者数を制限してきましたが、訓練未参加者からの要望に応え、2021年度からは訓練の様子をWEB配信し、好評を得ております。

●新たな課題

生産性向上を図るため、当工場もデジタルトランスフォーメーションを推進しています。危険物施設が多数存在する中で、IoT機器の利用を進めるには、経産省から出されているガイドラインのつとより、非防爆機器の使用可能エリアを厳密に設定し、自主行動計画を策定して順守する必要があります。機器の利用範囲の拡大が災害の引き金にならないよう、新たなルール作りと適正な運用の徹底が課題です。

また、定年延長に伴い、高齢従業員の増加が予想されるため、従業員自ら、自身の体力や健康の維持増進に努めるよう促すと共に、高齢従業員に配慮した防火・防災体制の構築も、今後の課題と考えています。

わが社の防火・防災訓練



救護訓練（普通救命講習）



人員・施設点検訓練



初期消火訓練



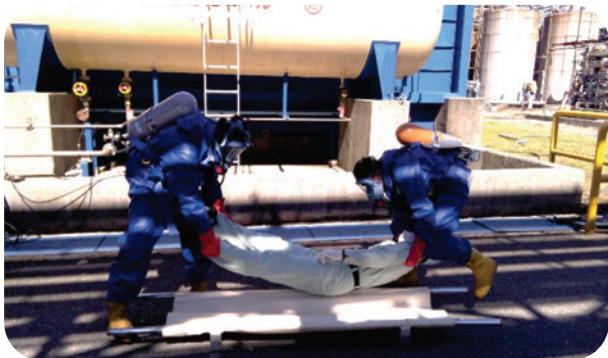
消火訓練



高所救出訓練（西消防署と合同）



流出対策訓練



有害ガス漏洩時救護訓練



水素ホルダー散水訓練

職場全員、安全第一

製造部 第2製造課 課長 高橋 真人

職場では潤滑油や電子材料の中間素材を製造しており、原料や製品として引火性液体や自己反応性物質を扱っています。静電気対策や取扱い時の漏洩対策を徹底し、職場全員、安全第一を意識してモノづくりを行っています。

職場には古い設備も多く、定期的な設備更新を進めています。また、日常点検で見つかった不具合については、速やかに対応を行い、重大災害の防止に努めています。万が一災害が発生した場合に備え、若手でも正しく、速やかに対応出来るよう、毎年、初期消火訓練や土嚢訓練等の防災訓練を行い、スキルアップを図っています。



災害リスクを低減させる

技術部 部長 宮武 慶充



Q 防火防災について考えるきっかけとなった出来事は何ですか？

1995年1月17日に発生した「阪神淡路大震災」です。当時私は学生でしたが、自宅近くの道路や鉄道などのライフラインが寸断されている現実を目の当たりにしました。

Q 防火防災について若手職員にどのように指導していますか？

職場の安全会議で、過去の災害事例を説明し、いつでも・どこでも起こりうる、ということを伝えています。ただ、経験しないと自分事として捉えづらいことがありますので、自衛消防隊の放水訓練や消防操法大会に優先的に参加させ、防火防災に対する意識を向上させています。

Q 防火防災について今後新たに取り組みたいことは何ですか？

近年増加しているゲリラ豪雨や高潮などの自然災害への対応は今後も継続が必須です。また、設備の保守点検を併せて強化し、災害リスクをさらに低減させたいと考えています。

当事者意識を持って訓練に取り組む

環境安全管理室 室長 山本 隆裕

Q 事業所における防火防災についてのスローガンや、取り組みなどについて教えてください。

当社は全社で「完全ゼロ災」を目指した安全活動を展開しています。労働・環境・設備などの各災害の防止を図るため、危険に対する感性の向上と基本的安全行動の徹底、災害リスクの低減の他、環境関連設備の適正な運転管理や防災体制の強化などに取り組んでいます。

Q 事業所における防火防災についての長所や短所、改善点、その他あなたが思うことは何ですか？

工場全体で行う総合防災訓練では、西消防署様にも参加して頂いています。普段見られない消防車による放水やはしご車による高所からの救出などを間近で体験できることから、教育訓練としてのインパクトは絶大です。また工場内のグラウンドで行う初期消火訓練では、西消防署様の指導のもと、粉末消火器を用いて実際に燃えている火を消火する訓練を実施しており、本物の消火操作を体験できるため、実用的な訓練であると考えています。

Q 防火防災について若手職員に伝えたいことは何ですか？

自然災害にしろ、人災にしろ、いつ自分が当事者になるかわかりません。教育や訓練は、いざというとき、被害の拡大防止や自分の身を守るために最大限活用できるように、真剣に取り組み、知識と経験を積んでもらいたいと思います。

